

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 204 号	2018年7月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—7月1日（日）会員11名が参加し、U字溝を用いた水路の補修（草原水路下流部および湿地帯へのオーバーフロー部）、湿地帯の除草、止水池除去草の撤去の作業を実施しました。作業開始前には、親子自然観察隊の補助金申請に関する公開プレゼンテーション大会の報告を行いました。

—7月14日（土）会員および親子自然観察隊が参加し、駐車場の草刈りと田圃の除草の作業を実施しました。また親子自然観察隊の子供たちは、田圃・止水池・ため池に入り水生生物の観察も行いました。止水池ではウシガエルの捕獲を試みましたが、親を捕まえることはできませんでしたが、オタマジャクシ44匹を捕獲しました。参加した人数は、会員9名、山大生1名、子供9名、保護者7名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—7月28日（土）維持活動（駐車場草刈り・清瀬峡整備）

—8月4日（土）親子自然観察隊（水棲動物観察・須賀河内川）

—8月18日（土）維持活動（草刈り、虫取り）

—8月25日（土）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 」 （記）

今回はありません。

5. 親子自然観察隊 「害虫駆除・大作戦」 （管 哲郎 記）

「ビオトープ二俣瀬をつくる会」の夏のエコアップに合わせ、親子自然観察隊による“害虫駆除・大作戦”を行いました。

“害虫、害獣”とはイナゴ、ウシガエル、ジャンボタニシなどが主な対象物で、今日の作戦はウシガエルの親を泥の中より追い出して捕まえようを行いました。池の中は子供たちにとっては結構深く、池に入るのをためらう子もいましたが、みんなで横1列に並び池の底

を踏みしめ”ウシガエル“を網に追い込みました。2回繰り返しましたが残念ながらウシガエルの親はかかりませんでした。

そのうち網でウシガエルの”オタマジャクシ“を上級生が捕まえることに成功すると、下級生も池に入り網で次々とウシガエルのオタマジャクシを捕まえました。ウシガエルのオタマジャクシは大変に用心深くなかなか捕まえるのは難しいのですが、合計40頭以上を捕獲しました。思った以上の収穫で、親ガエルは捕獲できませんでしたが、オタマジャクシを捕獲でき作戦は成功でした。みんな、有難う！

連日の暑さにも関わらず7家族17名、見学者1家族2名、山口大学生1名、およびビオトープ会員9名の参加をいただきました。日陰での気温33℃を計測しましたが、子供たちにとって暑さとは関係ないようで、炎天下の中、熱心に害獣である“ウシガエル”のオタマジャクシを泥んこになりながら採集してくれました。“大きいタニシ”を数個採集しましたが、すべて日本産”タニシ”でした。

カエル、オタマジャクシのほかタイコウチ、ミズカマキリ、コオイムシ、ゲンゴロウの幼虫、ドジョウ、ハヤ、メダカ、エビ、トンボのヤゴなどが捉まり、いろんな水生昆虫に触れ、勉強になったようです。樹の幹ではアブラゼミの羽化やニイニイゼミの抜け殻も見つかり、“昆虫の森”ではノコギリクワガタをゲットし大喜びの隊員もいました。

真夏の作業で裏方さんも大変でした。炎天下では長時間の外での作業は危険です、1回目の休憩で、冷たいお茶やカルピスなどで喉を潤し、2回目は、冷たい“スイカ”をいただき本日の作業を終了しました。休憩が終わり11:30に本日の行事の終了宣言を行いました。暑い中、帽子をかぶらず水に入っておタマジャクシの駆除をしていただいき、暑さで気分が悪くならないか心配でしたが、全員元気に帰っていただいたので安心しました。

冷たい飲み物やスイカや氷などお世話いただいた会員の皆様、お疲れさまでした。

【ウシガエル】（食用ガエルとも言う）

成体（親）の大きさは110～180cmほど、1918年に食肉用に政府がアメリカより輸入、戦争中養殖場より逃げだした個体が全国で野生化したカエル。繁殖期は5月～9月、1頭の♀は6000個～40,000個の卵を産む。オタマジャクシはその年にカエルになるが、なれなかったオタマジャクシは越冬し翌年カエルに変態する。変態前のオタマジャクシは大きさ10センチほどに成長し目立つ。しかし、警戒心はオタマジャクシも成体も大変強く、近づくといち早く逃げ、なかなか捕まらない。

“アメリカザリガニ”はウシガエルのエサとして一緒に日本に持ち込んだもの、これも野生化し日本各地に広がってしまった。



捕獲作戦のお話



オタマジャクシの採集

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(31) ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister)

トンボ目 トンボ科

もともと南方系のトンボでしたが、1981年に石垣島で発見され、その後沖縄諸島へ分布を広げ、1980年後半には奄美大島、九州本土（大分県）にまで確認されるようになったようです。なお四国でも記録があり、山口県への上陸が待ち遠しいのですが、なかなか見つかりません。沖縄では3月～12月まで見られますが、本土では4月～10月くらいではないでしょうか。池や沼、流れの緩やかな河川に生息します。

シオカラトンボを少し小さくしたくらいで、ショウジョウトンボによく似ていますが、ショウジョウトンボの赤色に比べ、ベニトンボはその名の通り紅色（ピンク色）が強く、♂の翅全体にはやはりピンク色の脈が入っています。とても美しいピンク色のトンボです。

♀はやはり地味で黄色っぽい色をしています。翅の付け根が橙色ですのでわかりやすいと思われます。しかし、地面の低いところ、枯れ枝などの低い場所に止まると、大変見つけにくいトンボです。



ベニトンボ♂ 沖縄県



ベニトンボ♂ 鹿児島県



ベニトンボ♀ 沖縄県



ベニトンボ♀ 鹿児島県

7. 会よりの連絡事項

1、稲作体験のうち—7月21日（土）より、田んぼの間欠灌漑が終わり、本格中干し（土用干し）をおこないました。約1週間～10日間の予定

※無効な分結をとめ、より良い稲株を育成する為です。

2、今年は厚東川中学校の地域ボランティア活動の申し込みが有りませんでしたので、8月4日は親子自然観察隊のみの活動となります。

8. 編集後記

大災害をもたらした豪雨の後、打って変わっての猛暑に。須賀河内川もあふれそうな水量だったそう。観察隊との合同の活動で田圃の除草作業、ちょっと稲の発育が遅れている様子、草も発育不足のよう。田圃から上がるとそれぞれ網を持ちよけじや池等でオタマジャクシ、カエル、メダカ、ドジョウ、タイコウチ、又水路から流れこんできたハヤも多くみられすくい捕っていた。この暑さの中誰もばてることもなく満足気な様子。咲き誇る睡蓮の上を真っ赤なショウジョウトンボ、チョウトンボやイトトンボ達が飛び交っている。こんな自然の中で目を輝かせて夢中に生き物に接する楽しみをこれからも忘れずに持ち続けて欲しいと思う一日だった。

（ 松本 フデ子 記 ）